同志社大学国文学会彙報

一九九一年度国文学会活動状況

〈新入生歓迎会〉　四月四日　新島会館

〈国文学会総会〉　六月十六日　本学至誠館会議室

・総会

・研究発表会

「真名本『曾我物語』冒頭に就いて
——安日伝承を中心に——」
水谷　亘（本学大学院博士課程後期在学生）

「文字による表現」玉村文郎（本学教授）

・講演

「神話と歴史」土橋　寛（本学名誉教授）

〈講演会〉（同志社大学文化学会との共催）
十二月六日　本学至誠館会議室

「『源氏物語』手習の巻について」
清水好子（関西大学教授）

〈同志社国文学会会報十九号〉　三月十五日発行

〈同志社国文学三十六号〉　三月二十日発行

一九九〇年度卒業論文題目

枕詞論
——音反復の枕詞に関する考察を中心に——　伊東圭悟

人麻呂の時間意識
——歌集歌を中心として——　久保和子

「敬和為熊凝述其志謌六首并序」の論
『万葉集』巻五の一考察　大村美津子

——「梅花歌群」の用字を中心として——　渡辺佐和子

歌垣歌謡の伝統
——万葉への発展——　井上拙郎

東歌とは何か
——その地名表出を中心に——　新井光明

額田王
——三輪山の歌を通してその存在を考える——　神谷奈都子

柿本人麻呂歌集における地名の考察

——「巻向歌群」をめぐって——　杉田直美
万葉集巻八及び巻十の問題点　住里知子
古代和歌における旋頭歌について　豊田ゆかり
柿本人麻呂の「安騎野」の歌論　浦野知子
万葉集七夕歌における憶良七夕歌の個性　山崎園子
『十一月のほうせん花』生きていることばとオモニたちの日本語　暮石千穂美
『新古今和歌集』三十九番歌から五十四番歌までについて
——断絶と推移を中心として——　出口三千代
『源氏物語』における「昔物語」の意義
——「ふること」を手がかりとして——　久岡俊治
『好色五人女』考
——巻三における姦通とおさん——　三宅康寛
『平家物語』における水の意味　澤村有里
『竹取物語』における語源説明の方法　柿平哲夫
『古事記』石屋戸神話考察
——コモリの語義を中心に——　竹多拓雄
物語地名論
——須磨・明石をめぐって——　旭岡美幸
流離・漂泊伝承考
——『源氏物語』の基層——　真利伸
『源氏物語』の物の怪
——方法としての地名——　竹林由貴
「かくろへごと」考
——物語の展開と表現の関係——　上田弘之
祟り神伝承考
——夜刀神から三輪の大神へ——　曾我部早苗
『落窪物語』の方法
——『住吉物語』との対比を通じて——　浦田郁子
『狭衣物語』の方法
——物語歌の引用がもたらすもの——　松野優子
『源氏物語』における「手習」の意義　市川容子
「琴の族」の構造
——『宇津保物語』「俊蔭」巻の読みから——　谷直樹
『源氏物語』幻巻の方法
——四季と和歌による再編——　小林陽代
『とりかへばや物語』における音楽の意味　久乗まや
『枕草子』の構成方法
——日記的章段の笑いを中心に——　大東克彦

『浜松中納言物語』における人物造型の方法　山下恵里
「保元物語」における源為朝像
——中世人の英雄観——　常盤次郎
「平家物語」と祇王説話
——南都本を最古態と考えて——　高岸市郎
「覚一本平家物語」における平維盛の人間像　平塚智久
「平家物語」における平清盛
——その倫理観について——　直田里美
『平家物語』「祇王」章句の最古態
——白拍子の芸能・宗教性からの考察——　吉田尚史
判官贔屓の形成と梶原の悪人化　藤澤圭子
謡曲「敦盛」小論　藤山孝之
風姿花伝
——「策士」世阿弥論——　寺田憲正
「足摺説話」の性格
——その成立と周辺をめぐって——　堀場由香
「宇治拾遺物語」の笑話とその役割　阿部佳孝
「宇治拾遺物語」の説話選択意識
——和歌説話を中心に——　秦野智世
説話に反映された時代意識
——「今昔物語集」「沙石集」における——　瀬川和好
「徒然草」の説話受容について　安部さゆみ
「方丈記と徒然草」における隠遁生活について　福井和明
「徒然草」における兼好の無常観について　文章敏
明治期におけるシャーロック・ホームズ移入史　堀内仁志
立原正秋論
——その内面における中世——　田中チサ
女武者・巴についての一考察
——「平家物語」・能「巴」において——　秋田有子
「平家物語」における神意の伝達
——巻第五「物怪之沙汰」を中心に——　藤元千晶
平清盛の人物像
——重盛との比較において——　栗田博子
理想の武人像
——覚一本「平家物語」の能登守教経——　牧野朋子
「平家物語」における涙の意義
——抒情性を中心に——　松田幸恵

「平家物語」最期の諸相にみられる運命の自覚
——父子関係を中心として——　高橋充子
「平家物語」における重盛・維盛像と熊野信仰　山口佐恵
「平家物語」における熊谷次郎直實
——「熊谷説話」が語りつがれてきた意味——　上田真理
平家物語研究の視点　大西孝
「因果物語・平仮名本」の編集方針
——「片仮名本」との比較を中心に——　桝田栄
「西鶴諸国はなし」における動物怪異譚の特異性について
——「鯉のちらし紋」の素材と方法——　片渕信子
上方絵本「懐胎誕生楽」について
——懐胎十月由来譚の流れを通して——　大原美代子
「浮世床」の構成と方法
——「浮世風呂」との影響関係から考える——　前川千夏
「菊花の約」の主題と構想
——左門・赤穴の人物像を中心に——　大淵努
歌舞伎における大岡政談の演劇的価値
——天一坊狂言を中心に——　山口裕子
「曽根崎心中」論
——人物考を中心に——　藤本征洋
「曽根崎心中」
——お初を中心に——　北川浩二
「曽根崎心中」二つの道行について　黒田幸治
近松心中物小考
——心中型別比較を中心に——　児島正美
近松世話浄瑠璃における悲哀表現
——「泣く」・「嘆く」・「涙」をめぐって——　小枝純子
近松世話物における一方法論
——時鳥・烏・鶏から考える——　松村恵美
「冥途の飛脚」とその改作　上釜弥寿子
「女殺油地獄」小考　黒木有里
「傾城反魂香」について
——吃又の意義——　新開恭子
近松門左衛門
——世話物における「義理」と「道理」——　小野晶子

「仮名手本忠臣蔵」の成立と構成について　福冨　森
「日本永代蔵」について　吉田敦治
「世間胸算用」論　三輪澄高
「好色五人女」　浜川真悟
「世間胸算用」における外面要因とその方法　金森好美
「世間胸算用」考察
——町人の金銭感覚と教訓について——　篠田知里
「浅茅が宿」論
——宮木をめぐって——　平川理恵
「浅茅が宿」の構成意識　図師浩子
「雨月物語」
——「夢応の鯉魚」の研究——　山下真美
「蕪村句集」における一つの方法
——新しい観点から——　神橋佳子
ことば遊びから見た川柳　玉柏尚子
日記・作品に見る一葉の恋　木村朗子
「渋江抽斎」論　中川俊秀
中島文学における「夢」の一考察
——「幸福」を中心にして——　菊池史和
「述而不作」
——「名人伝」を中心に——　水谷幸子
「Kの昇天」解読
——「物語」性と主張——　藤井均
梶井基次郎の「冬の蠅」についての考察
——主題を中心に——　丸山増美
太宰治「斜陽論」
——太宰の苦悩と訴え——　辻美穂
太宰治「人間失格」における愛の欠損
——葉蔵は救われたのか——　後藤依左
中村吉蔵とキリスト教
——自殺というプロットを通じて——　待場京子
「破戒」における藤村の影　沢田麻子
武者小路実篤の「自然」主義について
——「友情」を通して——　山本和嘉子
谷崎潤一郎「人魚の嘆き」論
——大正期の異国趣味を通じて——　中野聖子
「疾患」からの表現
——萩原朔太郎『月に吠える』に関して——　平野由里子
百閒の女人試論

——「昇天」を通して——　西田奈都代
観念の破壊による自我の確立
——「ドグラ・マグラ」のモチーフと思想——　川島充顕
「山椒魚」論
——その象徴性から考える——　野口真紀子
童話「土神と狐」における修羅　岡崎薫子
中野重治「村の家」論
——生活実践のリアリズムに抗して——　奥田一嗣
「酔いどれ船」の虚構とドキュメント　全且煥
川端康成作「古都」
——「都のすがた・日本の美」論——　大原美奈子
武田泰淳「蝮のすえ」における「女性」認識に関する考察　黒部隆洋
「失われた」世代の文学
——村上春樹四作品をとおして——　福中てる美
「夢十夜」にみえる漱石の思想　有村雅代
「坊っちゃん」における悲劇性と喜劇性　尾崎亮
漱石作品の女性像
——「虞美人草」を基点として——　福田優美
「それから」論　横川恵太
エゴイズムはいつ発露するか
——「こころ」の人間関係を通じて——　高橋弘江
夏目漱石の漢詩
——漱石の晩年の視点——　上古一美
行人論
——登場人物の性格と人間関係に関する考察——　成沢英己
芥川龍之介「地獄変」について
——芸術家・良秀とその屏風絵についての考察——　藤森右子
「六の宮の姫君」論考
——芥川の内面の反映——　藤田正樹
歌集「一握の砂」論　村松善
「道化の華」論
——「僕」の挿入意図の考察を中心に——　道岡涼子
有吉佐和子「紀ノ川」論
——「紀ノ川」の背景をめぐって——　田中納子
「城の崎にて」論　井ノ原裕司
テレビのCMの国語学的考察　室井康裕

「新聞の見出し」についての考察　永石　剛
女性の話しことばについての一考察　小畠久実
週刊誌における文体の統計的考察
——三十五年間の「週刊朝日」の分析——　岡田久美
カタカナ表記語の略語に見られる諸問題　岡内安子
原作とシナリオの語彙調査
——話し言葉と書き言葉について——　白石尚子
和歌における「掛詞」の考察
——後撰和歌集を中心に——　長谷川恵
日本における外来語の形容語彙のあり方について　久保田正昭
ニュースのことばについての考察　工藤陽子
現代日本語ハ行音の音響音声学的観察
——音節持続時間を中心として——　栗原美和子
非情物主語の受身表現について
——翻訳を通して見る——　中村弥佐
「女房ことば」の一般化について　中嶋光昭
広告表現から見た現代日本語　立川三香子
「日本国語大辞典」における外来語動作性名詞の品詞認定について　桐村洋行
「動詞」活用のタイプと意味の関係
——漢語動詞を中心として——　増谷俊彦

一九九〇年度修士論文題目

真名本「曾我物語」の序章試論　水谷亘
「予章記」考　西野晋一郎
「中日古典身替り劇とその趣向」
——「趙氏孤児」と「殪静胎内捃」——　陶麗萍
吉川英治の「三国志」論　黄元洪
横光利一「旅愁」論
——「欧洲紀行」から「旅愁」へ——　黒田大河
「我輩は猫である」論　金仙奇
外来語の受容と語義体系
——照明具関係語彙の場合——　中島澄子
現代日本語・中国語・朝鮮語三言語における親族呼称の比較対照　鄭光子
日中両言語の対照研究
——漢語の語構成を中心に——　曲維
中世における漢語の形容語に関する研究
——軍記物語を中心に——　松本秀輔

文末に「～ないか」を伴う表現の構文的特徴と意味
――動詞との関係を中心に――

岡本宜子

執筆者紹介

向井　芳樹……本学教授
水谷　亘……本学大学院博士課程（後期）在学生
田中　正人……本学大学院博士課程（後期）在学生
邊　恩田……本学大学院博士課程（後期）在学生
陶　麗萍……本学大学院博士課程（後期）在学生
宮本　正章……本学嘱託講師・宇部短期大学教員
藤井　涼子……本学嘱託講師・本学大学院修士課程修了生